平成30年度　百合丘高等学校 年間指導計画

教科・科目	家庭・ファッション造形基礎	学年	第3学年	教科書	実教出版「ファッション造形基礎」
		単位数	2単位	副教材	

学習目標

被服の構成、材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得させ、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。

学習方法

○授業において課題に対して自ら考え、また周りの生徒と共同で考える活動を行う。
○被服実習において被服生活の基本技術・着装を習得する。
○グループワークを通してコミュニケーション力を習得する。

学習評価

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	関心・意欲・態度	衣服の構成・材料・製作について関心を持ち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組むとともに、衣服を創造的に製作する態度を身に付けている。
b	思考・判断・表現	衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料・デザインなどが適当かを判断する力を身に付けている。
c	技能	製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身に付けている。
d	知識・理解	衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身に付けている。

学期	内容のまとまり	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期	衣服の素材 衣服の構成	10	人体と衣服 立体構成衣服と平面構成衣服 衣服素材の種類	人のからだと衣服 衣服製作のための人体計測	○	○		○	a人体と衣服の関係や衣服の基本的な構成に関心を持ち、基本的な知識の習得に意欲的に取り組もうとする態度で臨んでいる。 b性別・年齢・活動状態等に応じた衣服の構成について考え、それに応じた構成法の選択や修正方法を判断する力を身に付けている。 c衣服の製作や選択に必要な、人体各部位の計測法を習得している。 d人体の構造・機能、動作時の人体の形態変化とゆるみと衣服の関係について理解ができている。	・ワークシート ・授業態度観察 ・実習作品 ・実習レポート ・小テスト
				立体平面構成		○		○		
				衣服材料の性能と選択 洋服とは		○		○		
				単元のまとめ 製作のための用具	○		○			
	洋服の製作	18	製作の基礎 製作例	採寸	○		○	○	a衣服の材料について関心を持ち、実際の衣服製作との関連で、その種類や特徴についての知識の取得や理解に意欲的に取り組む態度で臨んでいる。 b具体的な衣服の種類やその製作を想定しながら、デザインや着用目的に応じた材料について考え、選択し、取扱いの方法を判断することができる。 c繊維などに関する実習を通じて、衣服の材料の特徴を理解し、適切に材料を取り扱うことができる。 d衣服の材料について、素材・繊維・糸・布の各段階ごとにその種類と特徴や加工方法について基本的な知識があり、衣服製作との関係でその特徴や取扱い上の注意事項を理解している。	・ワークシート ・授業態度観察 ・実習作品 ・実習レポート ・小テスト
				パターンの種類と利用		○				
				布地の性質と扱い方			○	○		
				裁縫の基礎	○		○			
後期	洋服の製作	18	製作例 着装	適切な縫い目	○		○	○	a洋服の種類やその製作技法について関心を持ち、具体的な洋服の製作に意欲的に取り組む態度で臨んでいる。 b具体的な衣服の制作にあたり、着用目的・着用者の個性・流行などを考え、適切なデザインを選択することができる。 c衣服の製作に必要な、平面製図の基礎的な技法を習得している。 d平面製図の方法と原型の種類、囲み製図などについての基本的知識があり、それぞれの特徴と適する題材について理解している。	・ワークシート ・授業態度観察 ・実習作品 ・実習レポート
				基本の縫い方	○		○	○		
				縫い城の始末	○		○			
				折しろの始末	○		○			
	製作と手芸	18	製作 着装	毛糸を使用した作品の基礎	○		○		a編み物のデザインやコーディネートについて関心を持ち、作品の製作や発表などについて意欲的に取り組む態度で臨んでいる。 b実習題材のデザイン・材料などに関し個人の創意・工夫を表現することができる。 c編み物製作の実習に際し、題材に応じた作成・仕上げを行う技法を習得している。 d編み物の種類と特徴、毛糸の扱いについて基本的な知識があり、また題材や使用目的による応用についても理解している。	・ワークシート ・授業態度観察 ・実習作品 ・実習レポート
				編み物の技術	○		○			
				多様な編み物	○		○			
				編み物の着装	○	○		○		
合計時数(55分授業)		64								